

【声明】

イスラエルによるガザ攻撃、カタールへの攻撃を許さない

2025年9月14日

核戦争に反対する医師の会（反核医師の会）

代表世話人会

イスラエルによるガザ市内への攻撃、カタールの首都ドーハでのハマス幹部への攻撃など、一連の蛮行に強い怒りとともに非難する。

イスラエルは、9月に入ってから、パレスチナのガザ地区への攻撃を繰返し、高層住宅や避難民のテントを次々と破壊している。民間防衛隊は、72時間の間に7階建て以上の高層住宅5棟や、350を越える避難民のテントが破壊され、7,600人以上が野外での生活を強いられることになったと報告している。

ガザ保健当局は8日、過去24時間で67人が死亡し、320人が新たに負傷したと発表した。イスラエル軍が2023年10月7日にガザ侵攻を始めて以降の死者は6万4,522人、負傷者は16万3,096人に達している。

更に、イスラエル軍は9月9日、カタールの首都に停戦交渉のために訪問していたハマスの幹部を標的とした攻撃を行った。国連のグテレス事務総長は「カタールの主権と領土保全に対する露骨な侵害」と強く非難した。今年6月13日のイスラエルによるイラン核施設攻撃に続く主権国家への攻撃は、明らかに国連憲章に違反するものであり、許されるものではない。

イスラエルが、2023年10月7日以後、パレスチナに対して行ってきた攻撃は、ハマスの殲滅の名を借りた、パレスチナ人に対するジェノサイドである。イスラエルを建国したユダヤ民族は、第二次世界大戦においてジェノサイドという耐え難い苦難を経験した。その「過ち」を、今度はイスラエル自らが繰り返している。

米国をはじめとする「国際社会」はこの蛮行を許容してきたが、イスラエルの度重なる蛮行に、一部のEUの国々では、ようやくパレスチナ国家承認などの動きがみられるようになった。一刻も早く米国をはじめとする国際社会は、イスラエルによるこの蛮行をやめさせなければならない。日本政府も、そのために最大限の努力をすべきである。